

久保

(くぼ)

流の立体交差に代表される近代的なもの、さかのぼれば桓武天皇まで行き着くような歴史的なものが3号線バイパスを挟んで交差する集落、久保。

新しいものと古いものがともに共存するその姿は、まるで古賀市の縮図のように感じる。

歴史の変化をずっと見守りつづけた火の見やぐらの半鐘は、まるでその役目が終わったかのように、今も公民館に大切に保管されている。



わかみやちまんくわ
若宮八幡宮 A

この若宮八幡宮は、仁徳天皇外三神を主神としてお祀りする久保の産土神です。これまでの拝殿は、明治28年に再建されたもので、広さは今の倍以上もあり、昔は廻り舞台などがあって、久保の文化と娯楽の中心施設でもありました。再建後百数年の風雪に耐え、その間幾度か修理されたが、老朽化には勝てず平成14年に改築されました。



くぼやくしどう
久保薬師堂 D
(糟屋北部新四国八十八箇所霊場第18番札所)

薬師如来が御本尊として安置されている。



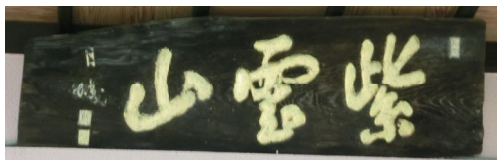
ごこうしんさま
五庚申様 F

18番札所のとなりにある5つの庚申塔。肥沃な田園を持つ地域らしく、農業の神として奉られている。



ごこうしんさま
庚申様 G

庚申信仰は、道教(中国の民族宗教)を元にする信仰と云われています。十支と十二支の組み合わせで60日ごとにやってくる庚申の日に庚申様をまつる行事が昔から行われてきました。庚申は、「かのえさる」と読んだり、「こうしん」と読んだりします。



せんりんじ
泉林寺 B

以前、錠内にあった泉林寺には、黒田長政と加藤清正が雨宿りに使ったといわれている。古賀全体を見晴らせる展望は素晴らしく、12月31日の大晦日には、たくさんの人が除夜の鐘を鳴らしにくる。



のうこつどう
納骨塔 C

納骨堂はめずらしくないが、納骨塔は非常にめずらしい。久保のお墓で桜の名所でもある。



くぼじそうどう
久保地蔵堂 E
(糟屋北部新四国八十八箇所霊場第19番札所)

四国霊場と同じ地蔵菩薩が御本尊として安置されている。階段を上がった小高い場所に地蔵堂があり、堂内部に十三仏が安置され、内陣には複数の地蔵菩薩が並んでいます。四国霊場第19番札所である立江寺から勧請した地蔵菩薩



くぼこうみんかん
久保公民館 H

ししまい
獅子舞

7月に行われる、無病息災を祈願して区域全体を回る行事。「とろう」「とろう」の掛け声は、病気を取るといわれている。